

令和7年度

ジャンプアップ研修の手引

徳島県教育委員会

目 次

I	ジャンプアップ研修の概要	1
II	所属校研修要項	2
III	教科等指導研修要項	3
IV	研修履歴の活用について	5
V	とくしま教員育成指標	
	・小学校教諭用	6
	・中学校・中等教育学校（前期課程）教諭用	7
	・高等学校・中等教育学校（後期課程）教諭用	8
	・特別支援学校教諭用	9
	・養護教諭用	10
	・栄養教諭用	11
VI	提出書類	
	【様式 A】 とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表	
	・（記入例）	12
	・小学校、中学校・中等教育学校（前期課程）教諭用	13
	・高等学校・中等教育学校（後期課程）教諭用	14
	・特別支援学校教諭用	15
	・養護教諭用	16
	・栄養教諭用	17
	【様式 B】 とくしま教員育成指標に基づく自己評価表	
	・（記入例）	18
	・小、中・中等（前期課程）、高・中等（後期課程）教諭用	19
	・特別支援学校教諭用	20
	・養護教諭・栄養教諭用	21
	【様式 C】 研究授業実施計画表	22
	【様式 D】 ジャンプアップ研修 研究授業実施報告書	23
	【様式 E】 欠席届	24
VII	G I G A スクール構想推進のための指導案例（全校種 全教科・領域共通）	25

I ジャンプアップ研修の概要

1 ねらい

採用後5年目の教諭等が、広い視野からこれまでの教職経験を振り返り、それぞれの使命を自覚するとともに、教諭等に求められる資質及びICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力の向上と人的ネットワークの構築を図る。

徳島教育大綱及び徳島教育振興計画（第4期）との関連について

重点項目I－推進項目1－③ICTの活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

2 主催

徳島県教育委員会

3 受講対象者

採用後5年目の小学校教諭、中学校教諭、中等教育学校教諭、高等学校教諭、特別支援学校教諭、養護教諭、栄養教諭に対して実施する。

4 研修内容等

(1) eラーニング研修（令和7年4月25日（金）～5月30日（金））

① 受講案内文書にあるURLにアクセスし、eラーニングを受講後、次の書類を作成する。
管理職の確認後にジャンプアップ研修担当宛へメールに添付して提出する。

ア 提出物

- ・【様式A】とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表
- ・【様式B】とくしま教員育成指標に基づく自己評価表
- ・【様式C】研究授業実施計画表（NITSオンライン講座を視聴して取り組む）

イ 提出期限

令和7年6月6日（金）

ウ 提出先

ジャンプアップ研修の手引 P2 参照

(2) 所属校研修（eラーニング研修終了後～11月中旬）

① 「とくしま教員育成指標」に基づく自己評価を踏まえ、自己の課題を把握し、ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力の向上に関するものを研究課題として設定する。校内での徳島型メンター制度を活用し、互いに授業を参観して協議を重ねながら、教科等における授業改善の方法を探究し、課題解決に向けて研究を進める。

② 研究授業と研究協議を11月中旬までに1回以上実施する。その際、管理職の参観の下で実施し、授業後は指導助言を受ける。また、研究協議参加者からの意見・助言も踏まえて次の書類を作成し、管理職の確認後にジャンプアップ研修担当宛へメールに添付して提出する。

ア 提出物

- ・【様式D】研究授業実施報告書
- ・学習指導案（A4版・PDF）

イ 提出期限

令和7年11月21日（金）

ウ 提出先

ジャンプアップ研修の手引 P2 参照

(3) 教科等指導研修

① 次の書類を完成させて、管理職の確認後に教科等指導研修に持参すること。

※「eラーニング研修」「所属校研修」等で学んだことを反映させた内容にすること。

- ・【様式A】とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表
- ・【様式B】とくしま教員育成指標に基づく自己評価表
- ・学習指導案、授業で使った資料や教材等（教科別人数＋1部）

② 徳島県立総合教育センターで開催する次の校種別部会に参加すること。

令和7年12月2日（火）小学校部会

令和7年12月3日（水）中学校・中等教育学校（前期課程）部会、養護教諭部会、栄養教諭部会

令和7年12月4日（木）高等学校・中等教育学校（後期課程）部会、特別支援学校部会

II 所属校研修要項

1 目的

学習指導要領の趣旨を実現するために、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力の向上を図る。

徳島教育大綱及び徳島教育振興計画（第4期）との関連について

重点項目Ⅰ－推進項目1－③ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

関連する「とくしま教員育成指標」の資質・能力の項目

- 素養「B 識見・学び続ける力」
- 授業力・学習指導「C 授業実践力」「D 授業省察力・改善力」
- ICTの利活用「A ICTを学習指導に利活用する力」
- 専門的職務実践力・学習指導「B 保健教育」「F 教科等における教育指導」

2 期 日

eラーニング研修終了後～令和7年11月中旬まで

3 内 容

① eラーニング研修終了後の課題について

【様式A】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表」、【様式B】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価表」を踏まえ、自己の課題を把握する。eラーニング研修で視聴したNITSオンライン講座の学びを取り入れ、ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力の向上に関するものを研究課題として設定し、【様式C】「研究授業実施計画表」を作成する。校内での徳島型メンター制度を活用し、互いに授業を参観して協議を重ねながら、教科等における授業改善の方法を探究し、課題解決に向けて研究を進める。

ア 提出物 【様式A】、【様式B】、【様式C】 ※管理職の確認後に提出すること。

イ 提出方法 ジャンプアップ研修担当宛へメールで送付する。（下記参照）

ウ 提出期限 令和7年6月6日（金）

② 研究授業について

小学校教諭は、これまで深く研究する機会がなかった教科等や苦手な教科等に取り組む機会と捉え、「各教科（道徳科、外国語科を含む）、外国語活動、特別活動、総合的な学習の時間」の中から選択すること。また、特別支援学級担任は、各教科等を合わせた指導、自立活動も選択できる。人権学習に取り組む場合は、教科等名を先に表記し、これが人権教育として展開されるものであることを「〇〇科（人権）」の形で併記する形式で報告すること。

中学校・中等教育学校（前期課程）及び高等学校・中等教育学校（後期課程）教諭は、担当教科（科目）で研究授業を実施する。なお、中学校の特別支援学級担任は、各教科等を合わせた指導、自立活動も選択できる。

特別支援学校教諭は、「各教科（科目）（道徳科、外国語科も含む）、外国語活動、各教科等を合わせた指導、総合的な学習（探究）の時間、特別活動、自立活動」の中から選択すること。

いずれの校種においても、ティーム・ティーチングの授業の場合は、T1として実施すること。

養護教諭は、保健学習（指導）でT1として実施すること。

栄養教諭は、教科等における「食に関する指導」をT2として実施すること。

学習指導案の形式は、徳島県立総合教育センターWebサイト→教職員支援 学校支援→教科等の指導に役立つ情報→各校種・各教科等のページや、ジャンプアップ研修の手引「VII GIGAスクール構想推進のための指導事例」、文部科学省のWebサイト等を参考に作成すること。

ア 提出物 【様式D】、学習指導案（A4版・PDF）※管理職の確認後に提出すること。

イ 提出方法 ジャンプアップ研修担当宛へメールに添付して提出する。（下記参照）

ウ 提出期限 令和7年11月21日（金）

【提出先メールアドレス】

jumpup@mt.tokushima-ec.ed.jp

※県立学校は、学習系パソコン（外部メール）から送付してください。

- ・メールの件名「受講者番号・氏名・学校名・教科等」
- ・ファイル名「受講者番号・氏名・様式〇」、「受講者番号・氏名・学習指導案」
- ・提出物は、それぞれPDFファイルにしてメールに添付する。
- ・メール作成時に、「開封確認メールを要求」と設定する等により、送信先がメールを受信できたことを確認する。

Ⅲ 教科等指導研修要項

1 目的

教科等における授業改善の方法を探究し、ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力の向上を図る。また、生徒指導及び情報モラル教育等の喫緊の教育課題等について実践事例や演習を通して意義や重要性についての正しい知識を身に付け、とくしま教員育成指標を踏まえた資質・能力の向上を図る。

徳島教育大綱及び徳島教育振興計画（第4期）との関連について

重点項目Ⅰ－推進項目1－③ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

関連する「とくしま教員育成指標」の資質・能力の項目

- 素養「B 識見・学び続ける力」
- 授業力・学習指導「C 授業実践力」「D 授業省察力・改善力」
- ICTの利活用「A ICTを学習指導に利活用する力」
- 専門的職務実践力・学習指導「B 保健教育」「F 教科等における教育指導」

2 期日及び会場 徳島県立総合教育センター 各研修室

令和7年12月2日（火）小学校部会

令和7年12月3日（水）中学校・中等教育学校（前期課程）部会、養護教諭部会、栄養教諭部会

令和7年12月4日（木）高等学校・中等教育学校（後期課程）部会、特別支援学校部会

3 日程と内容

9：15～ 9：45	受付
9：45～10：00	開会、イントロダクション
10：00～12：00	協議「ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力の向上」 講師 学校経営支援課、教職員研修課、特別支援・相談課、 教育DX推進課、義務教育課、高校教育課、人権教育課、 体育健康安全課 各担当者
12：00～13：00	昼食・移動
13：00～13：15	講義・演習「いじめの『未然防止』及び『早期発見・対応』に向けて」 講師 いじめ・不登校対策課 担当者
13：15～14：45	講義・演習「生徒指導について」 講師 鳴門教育大学大学院 教授・准教授
14：55～15：25	講義・演習「情報モラル教育について」 講師 教育DX推進課 担当者
15：25～15：50	講義・演習「自分で切り拓くキャリアデザイン」 講師 学校経営支援課、教職員研修課、特別支援・相談課、 体育健康安全課 各担当者
15：50～16：00	リフレクション、閉会

4 準備物

- ・教員用端末（所属のセキュリティーポリシーを遵守すること）
- ・筆記用具等（署名できるボールペン等を準備すること）
- ・【様式A】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表」、【様式B】「とくしま教員育成指標に基づく自己評価表」
※1度提出したものを完成させて、必ず管理職の確認を受けること。
- ・学習指導案と授業で使った資料や教材等（教科別人数＋1部）
※教科別人数は後日文書にて通知します。
- ・Plantで研修履歴を確認しておく。（「Ⅳ 研修履歴の活用について」参照）

5 備考

- (1) やむを得ず欠席する場合は、あらかじめ管理職（緊急の場合は本人）が担当者まで電話連絡し、管理職は、速やかに欠席届をメールに添付して提出してください。送付は学校代表メールアドレスもしくは管理職のメールアドレスから行うようにしてください。欠席届の様式は、Plantの該当研修のページ又は、総合教育センターのWebサイトからダウンロードできます。

【送付先】徳島県立総合教育センター教職員研修課
kyoushokuinkenshuu@g.tokushima-ec.ed.jp

※県立学校は、学習系パソコン（外部メール）から送付してください。

- (2) 研修当日、出発地又は研修会場までの経路を含む地域に、特別警報又は暴風警報、大雪警報

- が発表されたことにより旅程に支障がでる場合は、管理職を通して電話連絡してください。
欠席の場合は(1)の手順に従ってください。
- (3) 教員用端末を持参できない場合は、管理職等と相談の上、担当者まで事前に相談してください。
 - (4) 服装は、研修にふさわしい服装で参加してください。5月～10月に実施する研修についてはエコスタイル（夏はノー上着・ノーネクタイ等）で結構です。
 - (5) 研修当日、午前7時の時点で研修会場を含む地域（総合教育センターの場合は「板野町」地域）に、特別警報又は暴風警報、大雪警報が発表中の場合は、その日の研修講座等は中止します。後日、振り替えて実施することはありません。
 - (6) 昼食は各自で御準備ください。（弁当の販売はしていません。）

【連絡先】 教職員研修課 ジャンプアップ研修担当 088-672-5100

IV 研修履歴の活用について

自身のキャリアデザインのために、研修履歴を次の手順で確認しましょう。

- 1 徳島県立総合教育センターWebサイトの「教職員研修講座」をクリックしてください。



②
ここをクリック

③
「研修申込み・履歴確認」をクリックし、「研修申込みと履歴確認方法について」（教職員）を参照しながら、Plant へのログインを行ってください。

- 2 「受講履歴」のタブをクリックすると、受講した研修についての情報が表示されます。



- ・「受講履歴一覧」には、Plantで申込みを行い、修了した研修の履歴が表示されます。
- ・「受講履歴登録」には、令和6年度以前に受講した指標研修と、「受講履歴追加」や「受講履歴一括登録」で登録した一般研修の履歴が表示されます。
- ・「受講履歴出力」から、受講履歴を年度ごとに印刷することができます。

※詳細は、Plantの＜教員アカウント向けマニュアル＞（P42～）を参照してください。

キャリアステージ	採用時に本県が求める力	第1ステージ			第2ステージ		第3ステージ
		養成期	基礎形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期	
A 使命感・倫理観	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職務を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 使命感と教職への誇り、たくましく精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	
		○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 豊かな経験に裏打ちされた見識を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	
		○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 児童一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 児童一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。		
		○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ グループリーダーとして、創意工夫や企画力を発揮し、他のグループとも連携・調整しながら、組織を活性化させている。	○ 学校教育目標の達成に向け、「チーム学校」としての組織力が発揮できるよう率先して工夫改善に努め、学校全体の教育計画の作成に参画している。	
		○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 地域の教育資源(人材・施設・伝統行事等)についての情報を把握し、その活用を図っている。	○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。	
		○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに、安心・安全に配慮した環境づくりをしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	○ これまでの経験を生かし、地域と協働した創意工夫のある安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する取組を発信したり、危機管理体制づくりに参画している。	
B 職業観・学び続ける力	○ 自他を大切にし、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ 校務分掌等の業務内容を理解し、計画的に職務遂行に努めている。	○ 校務分掌等の業務を、周囲の教職員と調整しながら遂行している。	○ 校務分掌等の業務の工夫改善を図るとともに、若手教員に助言をしている。	○ 組織全体を俯瞰し、業務の効率化を推進している。	
		○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。	○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。	○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。	○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 人材育成の重要性を踏まえ、OJTを計画的・継続的に進め、支え合い、学び合う環境づくりに努めている。	
		○ 安全・安心な学習環境の確保に努め、児童の学びの意欲を高め、学習意欲の向上につなげる支援をしている。	○ 安全・安心な学習環境の確保に努め、児童の学びの意欲を高め、学習意欲の向上につなげる支援をしている。	○ 安全・安心な学習環境の確保に努め、児童の学びの意欲を高め、学習意欲の向上につなげる支援をしている。	○ 安全・安心な学習環境の確保に努め、児童の学びの意欲を高め、学習意欲の向上につなげる支援をしている。	○ 安全・安心な学習環境の確保に努め、児童の学びの意欲を高め、学習意欲の向上につなげる支援をしている。	
		○ 児童の活動の姿や思考の流れを想定し、教材やICT等の効果的な活用場面等を考えながら、学習指導案を作成している。	○ 児童の活動の姿や思考の流れを想定し、教材やICT等の効果的な活用場面等を考えながら、学習指導案を作成している。	○ 児童の活動の姿や思考の流れを想定し、教材やICT等の効果的な活用場面等を考えながら、学習指導案を作成している。	○ 児童の活動の姿や思考の流れを想定し、教材やICT等の効果的な活用場面等を考えながら、学習指導案を作成している。	○ 児童の活動の姿や思考の流れを想定し、教材やICT等の効果的な活用場面等を考えながら、学習指導案を作成している。	
		○ 基本的な指導技術を身に付け、児童の学習の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、発問・指示・説明・板書・児童とのやり取り・最新のICT等の指導技術を身に付け、活用している。	○ 最新の知見に基づき、新たに身に付けた指導技術、指導方法、評価方法を積極的に活用し、授業を展開するとともに、若手教員への助言・育成にあたりしている。	○ 幅広い情報を基に、自分の指導技術、指導方法、評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた範を積極的に示したり、学校全体の授業力向上を働きかけたりしている。		
		○ 児童の習得状況に応じた指導・支援の方法を理解している。	○ 児童の習得状況を目標に照らして評価し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための指導・支援をしている。	○ 学びの質や長期的な変容にも目を向け、ICT等を効果的に活用して一人一人の習得状況を的確に把握し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補足的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による質的な学習の深まりを把握し、意図的・計画的な指導・支援をしている。		
		○ 授業を分析して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	○ 自分の授業を振り返り改善する習慣や、他の教職員の授業に学ぶ習慣が身に付いている。	○ 校内や都市の研究会等で研究授業を積極的に行うとともに、助言を受けて、自分の授業を客観的に評価し、授業改善につなげている。	○ 学校全体の授業改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。		
		○ 児童理解の意義や、児童の心身の発達の特徴について理解している。	○ 児童に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解を促して信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 児童の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるように意図的・計画的に指導・支援をするなど、若手教員に助言を行っている。	○ 児童を深く理解し、細やかな配慮をするなど、全ての児童が児童理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりに努めている。		
		○ 担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、学級経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○ 学級集団をはじめ、児童会やクラブ活動等の集団の経営方針を基に、それぞれ一貫性のある指導・支援をしている。	○ 異年齢集団等様々な集団活動について、よりよい集団に高め、集団相互の関わりを活性化させるとともに、若手教員に助言を行っている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。		
		○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見や対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気づき、児童、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り、その様々な方策について、若手教員に助言を行っている。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、細心の注意を払って指導・支援が行われるよう働きかけている。		
		○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、児童の自己有用感を高めつつ、自立した生活、社会の形成における自己の役割について理解できる素地を育てる指導をしている。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野と低・中・高学年のキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた組織的・体系的な取組を図り、他校種や家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図りながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導が充実するよう、助言を行っている。		
		○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に関する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 児童の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえた個別的教育支援計画や個別の指導計画を立案して、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 児童の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、合理的配慮の観点から校内での連携・調整を行うなどして、学校生活全体を通じて個に応じた支援を行っている。	○ 個々の児童に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。		
○ 関係する校務分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んだりしている。	○ 校内委員会等で情報共有を行った上、外部の専門家や関係機関と連携したりして、ケース会議等を実施している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携し、学校全体で児童を支援する体制の整備を推進している。				
○ 学びに困難を抱える児童への配慮を理解し、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、児童の学習上のつまづきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意欲的・主体的に学ぶ授業づくりを行っている。	○ アセスメントに基づき指導目標を明確化し、担任・担当間で積極的に授業改善を行うとともに、児童の得意な面を認めることで、学習意欲の向上につなげる支援をしている。	○ 児童一人一人の実態に応じた目標設定、教材の工夫、指導方法、称賞・承認の方法等について、若手教員に助言している。				
○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活への困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 児童が見通しをもって学校生活を過ごせるように、教室環境の整備や学級内ルールの明確化を図るとともに、コミュニケーションスキル向上等に関する指導を行っている。	○ 特別な配慮や支援を必要とする児童を含む全ての児童の望ましい行動を育てるとともに、ボテピア行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。	○ 個別支援や、ボテピア行動支援の実践について、全教職員が指導の効果を確認し、児童の成長と共に学び合う機会を計画的に設定している。				
○ 児童の活動の姿や思考の流れを想定し、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 児童の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。	○ 児童一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切に活用した創意工夫のある授業を実践している。	○ これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。				
○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した指導を実践するとともに、蓄積した教育データを学習評価につなげている。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補足的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のため、必要とされる教育データの活用やICTスキル向上についての研究に努め、助言をしている。				
○ 学校業務に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級事務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な活用について教職員に提案している。				

資質・能力	キャリアステージ	採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞		＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞	
			養成期	基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期	
ICTの活用	A 使命感・倫理観	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職務を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	
		B 学び続ける力	○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた見識を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。			
		C 社会性・コミュニケーション力	○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイ役となり、支え合う環境づくりをしている。			
		D 学校組織マネジメント力	○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ スクール・ミッションやスクール・ポリシーを理解し、業務についての報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ グループリーダーとして、創意工夫や企画力を発揮し、他のグループとも連携・調整しながら、組織を活性化させている。	○ 学校教育目標やスクール・ミッションの達成に向け、「チーム学校」としての組織力が発揮できるよう率先して工夫改善に努め、学校全体の教育計画の作成に参画している。	
	E 連携・協働力	○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 地域や教育資源(人材・施設・伝統行事等)についての情報を把握し、その活用を図っている。	○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。		
	F 危機管理能力	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に關する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に關する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するときに、安心・安全に配慮した環境づくりをしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	○ これまでの経験を生かし、地域と協働した創意工夫のある安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する取組を発信したり、危機管理体制づくりに参画したりしている。		
	授業力・学習指導	A カリキュラム・マネジメント力	○ 学習指導要領の「目標」内容や系統等を理解している。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、生徒の実態に応じ、作成の意図を考えながら、学校のカリキュラムを活用している。	○ 学校教育目標を踏まえ、各学年間の系統や幼・小・中・高の接続を見直し、学校の特色を生かした創意工夫のあるカリキュラムを作成している。	○ 学力調査・学校評価等の結果に基づき、学年や担当教科等の中心となって、長期的・継続的な改善策を提案実践している。	○ 学力調査・学校評価等の結果に基づき、学校全体の課題を把握し、改善策を組織的に展開している。	
		B 授業構想力	○ 生徒の活動の姿や思考の流れを想定し、教材やICT等の効果的な活用場面等を分析しながら、学習指導案を作成している。	○ 生徒の心身の発達や学習過程に關して理解するとともに、生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、様々な教材やICT等の効果的な活用や評価方法を取り入れた授業を構想している。	○ 生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着のために、指導と評価の一体化を図り、教材等の効果的な活用に取り組み、創意工夫のある授業を構想している。	○ これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高め、ICT等の効果的な活用方法と学習指導の研究に努め、改善につながる助言をしている。		
		C 授業実践力	○ 基本的な指導技術を身に付け、生徒の学習の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、発問・指示・説明・板書・生徒とのやり取り・最新のICT等の指導技術を身に付け、活用している。	○ 最新の知見に基づき、新たに身に付けた指導技術、指導方法、評価方法を積極的に活用し、授業を展開するとともに、若手教員への助言・育成にあたっている。	○ 幅広い情報を基に自分の指導技術、指導方法や評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた範を積極的に示したり、学校全体の授業力向上を働きかけたりしている。		
		D 授業改善力	○ 生徒の習得状況に応じた指導・支援の方法を理解している。	○ 生徒の習得状況を目標に照らして評価し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための指導・支援をしている。	○ 学びの質や長期的な変容にも目を向け、ICT等を効果的に活用して一人一人の習得状況を的確に把握し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補足的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの上昇についての研究に努め、助言をしている。		
		A 児童生徒理解力	○ 生徒理解の意義を理解し、生徒指導や教育相談等の基本的な方法を身に付けている。	○ 生徒に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 生徒の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるような意図的・計画的な指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。	○ 生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。		
		B 集団づくり力	○ 担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、ホームルーム経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○ ホームルームをはじめ、生徒会や部活動等の集団の経営方針を基に、それぞれ一貫性の高い指導・支援をしている。	○ 様々な集団活動について、よりよい集団に高め、集団相互の関わりを活性化させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。		
C 課題解決力		○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気づき、生徒、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り、その様々な方策について若手教員に助言をしている。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。			
D 未来ビジョン育成力		○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、生徒が勤労観・職業観を確立するとともに、自立した生活、社会における自己の役割についての認識を深め、社会を形成する一員として主体的に行動できるように指導している。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、社会的な自立に向けて、家庭・地域・企業、関係機関等との連携を図りながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点に基づいた指導が充実するよう助言するとともに、家庭・地域・企業、関係機関等と連携した指導・支援を推進している。			
特別に配慮・支援	A 個に応じた指導・支援力	○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に關する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえた個別的教育支援計画や個別の指導計画を立案し、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、合理的配慮の視点から校内での連絡・調整を行うなどして、学校生活全体を通じて個に応じた支援を行っている。	○ 個々の生徒に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がいの理解の促進に向け、家庭や地域への発信に努めたりしている。			
	B チームによる実践	○ 関係する校内分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んでいる。	○ 校内委員会等で情報共有を行ったり、外部の専門家や関係機関と連携したりして、ケース会議等を実施している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で生徒を支援する体制の整備を推進している。			
	E 多様性に基づく学習支援力	○ 学びに困難を抱える生徒への配慮を理解し、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、生徒の学習上のつまずきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意欲的・主体的に学ぶ授業づくりを行っている。	○ 個々の生徒への合理的配慮に基づき、板書やプリントの工夫、作業的なものの取り入れ、学習環境の配慮等を実施し、成就感や達成感につながる支援をしている。	○ 個々の生徒に対する学習指導上の合理的配慮の実施について、若手教員に助言している。			
	F 多様性に基づく生活支援力	○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性に關する生活上の困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 生徒が安心して生活できるように、教室環境の整備やホームルーム内での明確化を図るとともに、コミュニケーションスキルの向上や感情のコントロールに關する指導を行っている。	○ 特別な配慮や支援を必要とする生徒の二次的な問題は、周りの環境に配慮していることを理解し、生徒の自尊感情に配慮しながら、早期に適切な対応を行っている。	○ 卒業後の自立と社会参加を目指した指導・支援の充実を図るため、社会生活や就労への適応力向上のための取組を組織的に展開している。			
	A ICTを学習指導に活用する力	○ 生徒の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。	○ 生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業を実践している。	○ これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。			
	B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに關する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した指導を実践するとともに、蓄積した教育データを学習評価等につなげている。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補足的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの上昇についての研究に努め、助言をしている。			
		○ 学校業務に必要なアプリケーション・操作や情報モラル・セキュリティに關する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級職務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの機能をj活用して効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な活用について教職員に提案している。			

キャリアステージ	採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞		＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞
		養成期	基礎形成期	伸長・充実期	深化・発展期	熟達期
A 使命感・倫理観	教育の愛情と熱意をもって教育活動に臨むようとしている。	○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。
		○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊富な経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	
		○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 幼児童生徒一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	
		○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ グループリーダーとして、創意工夫や企画を発案し、他のグループとも連携・調整をしながら、組織を活性化させている。	
		○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。	○ 校務分掌等の業務内容を理解し計画的に職務遂行に努めている。	○ 校務分掌等の業務を、周囲の教職員と調整しながら遂行している。	
B 職業見学	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向けて行動している。	○ これまでの経験を生かし、地域と協働した教育活動を踏まえながら、カリキュラムを見直し、組織的に改善したり調整したりしている。	
		○ 教育要領・学習指導要領の「目標」「内容」や系統を理解している。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、幼児童生徒の実態に応じ、作成の意図を考慮しながら、学校のカリキュラムを活用している。	○ 学校教育目標を踏まえ、幼児童生徒の実態や新たな教育課題に対応するため、目的や意図を明確にしたカリキュラムを提案している。	○ 学校教育目標を踏まえ、各学年間の系統や幼・小・中・高の接続を見通して、学校の特色を生かした創意工夫のあるカリキュラムを作成している。	
		○ 幼児童生徒の障がいや発達段階に合った授業イメージをもち、個や場面に合った教材やICT等の効果的な活用場面等を考えながら、学習指導案を作成している。	○ アセスメントや客観的な根拠に基づいた幼児童生徒の個別の指導計画や年間指導計画に沿って、ICT等の効果的な活用や評価方法を取り入れた日々の保育・授業(以下、授業と表記。)を構築している。	○ 幼児童生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るために、指導と評価の一体化を図り、教材等の開発やICT等の効果的な活用に取り組み、創意工夫のある授業を構築している。	○ これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高め、教材やICT等の効果的な活用方法と学習評価の研究に努め、改善につながる助言をしている。	
		○ 基本的な指導技術を身に付け、幼児童生徒の学習の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	○ 各授業において目標設定や指導内容・方法を考え、個々の幼児童生徒の実態に即した教材・教具の活用による適切な指導・支援を行っている。	○ 学びの質や長期的な変容にも目を向け、幼児童生徒一人一人の習得状況を把握するとともに、新しい指導技術・指導方法・評価方法を積極的に取り入れ、適切に補充的・発展的な指導・支援を行っている。	○ 幅広い情報を基に自分の指導技術、指導方法、評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた範を積極的に示したり、学校全体の授業方向性を働きかけたりしている。	
		○ 授業を分析して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	○ 授業の目標に沿った具体的な学習成果の記録や自己評価を行い、授業改善を行っている。	○ 担任と幼児童生徒に関する教員間で指導の効果を確認しながら授業改善を行うとともに、幼児童生徒の得意なことを認めることにより、学習意欲の向上につなげる支援を行っている。	○ 様々な障がいのある幼児童生徒の授業について、学校全体の授業改善に資する助言を行っている。	
C 授業実践力	○ 幼児童生徒理解の意義や心身の発達過程・特徴について理解している。	○ 特別支援教育の理念、動向、関連する基礎的な用語を理解している。	○ 幼児童生徒に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援を行っている。	○ 幼児童生徒の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるように意図的・計画的に指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。	○ 幼児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で幼児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。	
		○ 担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、学級経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○ 一斉授業において、個別目標に対応した教材を設定したり、役割をもたせたりして、集団づくりの工夫を行っている。	○ 内容により学級、学年、学部で行うもの、他の学部と合同で行うもの等の集団構成を行い、幼児童生徒同士のコミュニケーションを活発にし、自発的なコミュニケーションが育めるような集団づくりに積極的に取り組むとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的な方策を提案している。	
		○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 他の教職員や専門家のアドバイスを受けながら、特別支援教育の最新の知見に基づいた指導方法や指導技術を身に付けている。	○ 幼児童生徒の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、その解決のために、個別的な支援や、ポジティブ行動支援の実践等、組織的できめ細やかな指導・支援を学校全体で取り組むように推進している。	
		○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ 個別の教育支援計画や個別の指導計画にキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点からの目標を設定し、一人一人の社会的・職業的自立の目標達成に向けて、日々の指導・支援を行っている。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、学校種をこえた連携や、家庭、地域、就労支援機関、企業、福祉施設、関係機関等との連携を図りながら、卒業後の社会的・職業的自立やQOLの向上を目指して、学校生活における教育活動を推進している。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導や、卒業後の生活を見据えた指導・支援について、学校全体における教育を推進している。	
		○ 幼児童生徒の実態把握の必要性を認識し、指導目標を明確にしようとしている。	○ 個々に応じたアセスメントにより、幼児童生徒一人一人の障がい特性を知り、特に配慮を必要とする様々な状態を理解している。	○ 各種発達心理検査、一般職業適性検査結果の活用や、課題分析等の客観的な根拠に基づいた実態把握に取り組み、指導目標を明確にしている。	○ 障がい特性理解を深めるための効果的な研修の方策を理解し、教職員に研修を促したり、助言をしたりしている。	
D 未来ビジョン育成力	○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、チームで協力して解決する必要性を理解している。	○ 特別支援学校のセンター的機能の役割を理解している。	○ 自校におけるセンター的機能について、校内組織や活動内容を理解し、先輩教員とともに、地域の学校への理解・啓発に取り組んでいる。	○ 特別支援学校の有する自立活動の指導のノウハウを活かし、地域の園・小中高等学校等の特別な支援を必要とする幼児童生徒に適切な指導・支援について助言するとともに、関係機関と連携強化に取り組んでいる。	○ 特別支援教育における高い専門性を持つ後進の育成を推進するとともに、自校のセンター的機能が有効に発揮されるために、校内の組織体制の機能強化に取り組んでいる。	
		○ 特別支援学校が取り組んでいる、家庭や地域、企業等と連携・協働した実践について知っている。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 地域の教育資源についての情報を把握し、「早期からのキャリア教育」「ソーシャル消費教育」「教職連携」「SDGs」等の取組において活用を図っている。	○ 近隣の地域や企業等と連携を進め、地域と一体化した「キャリア教育」に取り組んでいる。	
		○ 幼児童生徒の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 幼児童生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構築している。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしたり、幼児童生徒の成長や発達に応じて、きめ細やかに機器の調整を行ったりしている。	○ 専門・題材の開発や授業構想に関する専門性に加え、ICTの適切かつ効果的な実践・研究を生かした授業改善についての助言をしている。	
		○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した指導を実践し、一人一人の障がい特性、困難さ、支援のニーズに応じた活用を行うとともに、蓄積した教育データを学習評価につなげている。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的な指導・支援をしたり、幼児童生徒の成長や発達に応じて、きめ細やかに機器の調整を行ったりしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTシステムの向上についての研究に努めるとともに、一人一人に応じた活用について助言をしている。	
		○ 学校業務に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級事務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な活用について教職員に提案している。	

キャリアステージ	採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞		＜第2ステージ＞		＜第3ステージ＞													
		養成期	基礎形成期	伸長・充実期	深化・発展期	伸長・充実期	熟達期												
A 使命感・倫理観	B 学び続ける力	C 社会性・コミュニケーション力	D 学校組織マネジメント力	E 連携・協働力	F 危機管理能力	○ 教育的愛情と敬意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と熱意をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。											
						○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職務を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。											
						○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた謙見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。											
						○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。											
						○ 自他を大切に、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 児童生徒一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。											
						○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループリーダーとして、創意工夫や企画力を発揮し、他のグループとも連携・調整をしながら、組織を活性化させている。											
A 保健管理	B 保健教育	C 健康相談	D 保健室経営	E 保健組織活動	A 児童生徒理解・指導	B 集団づくり力	C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力	A 個に応じた支援力	B チームによる実践	C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	D 「わかった」「できた」を育む生活支援力	A ICTを学習指導に活用する力	B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 地域の教育資源(人材・施設・伝統行事等)についての情報を把握し、その活用を図っている。	○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを築いている。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。
															○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。	○ 互いの課題や学びの共有を図るとともに、若手教員の範となるよう努めている。	○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 人材育成の重要性を踏まえ、OJTを計画的・継続的に進め、支え合い、学び合う環境づくりをしている。	
															○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに安全・安心に配慮した環境づくりをしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。	
															○ 学校保健安全法を理解し、児童生徒の実態把握の方法や基本的な保健管理の方法について知識と基礎的な技能を身に付けている。	○ 児童生徒の心身の実態を把握し、保健管理及び感染症の予防対策、学校環境衛生活動を適切に行っている。	○ 保健情報を総合的に評価し、学校全体の実態を捉え、健康課題の解決に向けて校内の中心となって対応するとともに予防的措置を講じている。	○ 校内の教職員や近隣の学校の養護教諭と連携し、保健管理について指導的役割を果たすとともに、組織的に健康課題の解決を図っている。	
															○ 学習指導要領を踏まえ、養護教諭の専門性を生かして、保健教育を実践しようとしている。	○ 学級担任等と連携し、ICT等を効果的に活用しながら、養護教諭の専門性を生かして、個や集団を対象に保健教育を実践している。	○ 養護教諭の専門性を発揮し、児童生徒の実態に応じた保健教育を実施し、指導と評価の一体化を図るとともに、ICT等を効果的に用いて、家庭・地域へ広めている。	○ 社会状況の変化と実態に応じた全体計画の立案に積極的に参画し、組織的な実践・評価を通して、改善を図っている。	
															○ 学校保健安全法による健康相談の位置付けを理解し、心身の発達段階における健康課題に対する基本的な支援の方法を身に付けている。	○ 健康相談の基本的なプロセスを理解し、児童生徒の心身の発達段階の課題や現代的な健康課題との関連を踏まえた健康相談を実施している。	○ 心身の健康課題を総合的に捉え、校内支援体制の充実と努めるとともに、学校医等の専門職や保護者と組織的に連携し、児童生徒に応じた支援方法を検討・評価しながら対応している。	○ 個々の健康課題から全体の課題を捉え、教職員の意識を高めるとともに、支援体制づくりに参画している。	
○ 養護教諭の職務や役割、保健室の機能についてを理解し、保健室経営に取り組もうとしている。	○ 学校教育目標を踏まえ、保健室の役割等を理解し、保健室経営計画に沿った実践・評価をしている。	○ 学校教育目標を踏まえ、保健室経営の効果的な実践のため、最新の健康情報を得るとともに、工夫改善を図り、校内の健康教育のセンター的役割を果たしている。	○ 学校教育目標を踏まえ、近隣の養護教諭や関係機関等との連携を密にするとともに、地域のリーダー的役割を果たし、保健室経営を効果的に実践している。																
○ 保健組織活動の意義と学校保健に関する学校内外の協力体制の重要性を理解している。	○ 保健組織活動の意義を理解し、企画・運営に参画している。	○ 保健組織活動が効果的に実践できるよう内容の工夫改善を図るとともに、学校全体の健康課題の解決に向けて連携を推進している。また、保健組織活動について教職員や若手養護教諭に対して助言をしている。	○ 近隣の学校や関係機関と連携しながら地域の実情に応じた保健組織活動を推進している。																
○ 児童生徒理解の意義や、児童生徒の心身の発達過程・特徴について理解している。	○ 児童生徒に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努め、信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 児童生徒の発達や個性等より多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できよう意図的・計画的に指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。	○ 児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を促す環境づくりをしている。																
○ 集団づくりの意義や集団づくりの基本的な指導方法を理解している。	○ 学級担任等と連携しながら、学級集団をはじめ、児童会・生徒会やクラブ活動等の集団の経営方針を基に、それぞれ一貫性のある指導・支援をしている。	○ 異年齢集団等様々な集団活動の指導に積極的に関わり、よりよい集団・高めの集団間の関わりを活性化させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。																
○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 児童生徒の心身の健康課題を早期に発見し、保護者、他の教職員等と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 児童生徒の心身の健康問題を早期に発見し、疾患の予防等の課題解決に向け、必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り、その様な方策に応じて若手教員に助言をしている。	○ 学校が直面する様々な課題に対し、組織的できちんとした指導・支援が行われるよう働きかけている。																
○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、児童生徒の自己有用感を高めつつ、自立した生活、社会の形成における自己の役割について理解できるように指導をし自覚を促している。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、異年齢集団を組織したり、他校種や家庭・地域、企業、関係機関等との連携を図ったりしながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導が充実するよう、助言をしている。																
○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に関連する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 児童生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえ、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 児童生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、合理的配慮の視点から校内での連絡・調整を行なうことで、学校生活全体を通じて個に応じた支援を行っている。	○ 個々の児童生徒に対する合理的配慮の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。																
○ 関係する校務分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んでいる。	○ 校内委員会等で情報共有を行ったり、外部の専門家や関係機関と連携したりして、ケース会議等を実施している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で児童生徒を支援する体制の整備を推進している。																
○ 学びに困難を抱える児童生徒への配慮の方法、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、児童生徒の学習上のつまずきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意欲的・主体的に学ぶ授業づくりを行っている。	○ アセスメントに基づき指導目標を明確化し、担任・担当間で積極的に授業改善を行うとともに、児童生徒の得意な面を認めることにより、学習意欲の向上につながる支援をしている。	○ 児童生徒一人一人の実態に応じた目標設定、教材教具の工夫、指導方法、称賞・承認の方法等について、若手教員に助言している。																
○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活上の困難や、問題行動への基本的な指導方法を理解している。	○ 児童生徒が見通しをもって学校生活を送れるよう、保健室環境の整備や保健室内ルールの明確化を図るとともに、コミュニケーションスキル向上等に関する指導を行っている。	○ 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒を含む全ての児童生徒の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教職員で指導の効果を確し、児童生徒の成長と共に喜び合う機会を計画的に設定している。																
○ 児童生徒の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 児童生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。	○ 児童生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業を実践している。	○ これまでの実践や経験をもとに、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。																
○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、学級担任等と連携し、積極的ICTを活用した指導を実践している。	○ 学級担任等と連携し、最新の知見に基づきICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補足的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。																
○ 学校業務に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学校保健に関する業務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な活用について教職員に提案している。																

キャリアステージ		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞ 基盤形成期	＜第2ステージ＞ 伸長・充実期	＜第3ステージ＞ 熟達期	
資質・能力	A 使命感・倫理観	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨むとしている。 ○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指す、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。 ○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職務を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	
	B 学び続ける力	○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。 ○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	
	C 社会性・コミュニケーション力	○ 自分を大切にし、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 児童生徒一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	
	D 学校組織マネジメント力	○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。 ○ 校務分掌等の業務内容を理解し、計画的に職務遂行に努めている。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。 ○ 校務分掌等の業務と調整を、周囲の教職員との連携しながら遂行している。	○ グループリーダーとして、創意工夫や企画力を発揮し、他のグループとも連携、調整をしながら、組織を活性化させている。 ○ 校務分掌等の業務の工夫改善を図るとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校教育目標の達成に向け、「チーム学校」としての組織力が発揮できるよう率先して工夫改善に努め、学校全体の教育計画の作成に参画している。 ○ 組織全体を俯瞰し、業務の効率化を推進している。
	E 連携・協働力	○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。 ○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。	○ 地域の教育資源(人材・施設・伝統行事等)についての情報を把握し、その活用を図っている。 ○ 互いの課題や学びの共有を図るとともに、若手教員の範となるよう努めている。	○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。 ○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。 ○ 人材育成の重要性を踏まえ、OJTを計画・継続的に進め、支え合い、学び合う環境づくりをしている。
	F 危機管理能力	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応・衛生管理等をはじめ危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応・衛生管理等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに、社会状況の変化に合わせた環境づくりをしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって安全安心に配慮した環境づくりをしている。	○ これまでの経験を生かし、地域と協働した創意工夫のある安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応・衛生管理等に関する取組を発信したり、危機管理全体について参画したりしている。
ICTの活用	F 教科等における教育指導	○ 学習指導要領における教育の位置付けと、食育全体計画作成時の栄養教諭の役割を理解している。 ○ ICT等を効果的に活用し、食に関する指導の学習指導案作成や教材研究を行っている。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、児童生徒の実態に応じた食育全体計画を作成し、学級担任等と連携しながら、給食時間の指導及び教科等における食に関する授業に、ICT等を効果的に活用し、参画している。 ○ 指導を振り返ったり他の教職員の授業を自分の指導の改善に生かしたりしている。	○ 学校教育目標を踏まえ、児童生徒の実態に合わせた食育全体計画に沿って、食に関する授業に参画するとともに、指導と評価の一体化を図り、ICT等を効果的に用いた食育実践を保護者等に発信することで、家庭や地域との連携を図っている。 ○ 校内及び市町村委員会等で、授業や実践発表を積極的に行うとともに、社会状況の変化に合わせた最新の知識や指導技術を取り入れ、指導の改善をしている。	○ 食育がより効果的に行われるよう、高い専門性を生かし、助言をしている。 ○ これまで培ってきた指導技術や指導方法に、意欲的にICT等の新しい技術や方法、評価方法を提示し、栄養教諭の範となり、食育の取組を発信している。	
	G 個別指導	○ 児童生徒の生活の現状を認識し、個に応じた指導の重要性を理解している。	○ 個別的な相談指導の流れを理解し、学級担任や保護者等と相談しながら、適切な対応をしている。	○ 校内食育推進組織の中で、児童生徒の状況を総合的に評価し、関係職員や学校医等と連携しながら適切な対応をしている。	○ 個別的な相談指導の実践に関し、近隣の栄養教諭や栄養教諭未配置学校の教職員等に対し、経験を基に助言をしている。	
	H 学校給食の管理	○ 学校給食法を理解し、安全安心な学校給食管理を実践しようとしている。 ○ 学校給食に必要な調理技術を身に付けている。	○ 学校給食実施基準に基づき、食品構成や調理作業工程を考慮した献立を作成している。 ○ 学校給食衛生管理基準に基づき、関係機関と連携しながら適切な指導・助言及び管理を行っている。	○ 地域や「徳島ならでは」の創意工夫のある献立や社会的課題に対応した献立を作成している。また、喫食状況の把握から適切な栄養管理を行うとともに、教職員への情報提供や助言をしている。 ○ 市町村内の全学校給食施設において、安全安心な給食業務ができるように、近隣の栄養教諭等と連携しながら、マニュアルを作成したり助言したりしている。	○ 学校給食の運営管理に関し、各校や所属する市町村において指導的役割を果たしている。 ○ 市町村内の全学校給食施設において、安全安心な給食業務ができるように、近隣の栄養教諭等と連携しながら、マニュアルを作成したり助言したりしている。	
	I 食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開	○ 食に関する指導と学校給食の特質を理解し、それらを一体的なものとして実践しようとしている。	○ 各教科等において、学校給食が「生きた教材」となるような献立づくりをしている。	○ 学校給食を「生きた教材」として活用し、食に関する指導によって得られた知見や情報給食管理に生かすことで、両者を一体的なものとして展開するとともに、若手教員に助言をしている。	○ 食に関する指導と学校給食の管理の相乗効果が得られるように、教職員及び家庭、地域との連携を強化している。	
	J 食育コーディネーターとしての連携・調整	○ 食育を推進するための、学校内外の連携の方法や重要性を理解している。	○ 食育コーディネーターとして、市町村学校食育推進委員会の運営に関わっている。	○ 市町村内外の食育全体計画の作成や円滑な実践のための支援をしている。 ○ 地域の生産者団体等と連携し、様々な体験活動を企画・調整する等、地域の食育推進に関わっている。	○ 食育コーディネーターの指導的立場となり、関係機関と連携を図りながら、市町村学校食育推進委員会の運営に中心となって関わっている。	
	A 児童生徒理解力	○ 児童生徒理解の意義や、児童生徒の心身の発達過程・特徴について理解している。	○ 児童生徒に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感の理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 児童生徒の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるように意図的・計画的に指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。	○ 児童生徒を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。	
	B 集団づくり力	○ 集団づくりの意義や集団づくりの基本的な指導方法を理解している。	○ 学級担任等と連携しながら、集団づくりの経営方針に沿ってよりよい集団に育てるために指導・支援をしている。	○ 異年齢集団等様々な集団活動の指導に積極的に関わり、集団相互の関わりを活性化させ、専門性を生かしながらよりよい集団づくりに取り組んでいる。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。	
	C 課題解決力	○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気づき、児童生徒、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携し、長期の視野を持って、その様々な方策について若手教員に助言をしている。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、組織的できちんとした指導・支援が行われるよう働きかけている。	
	D 未来ビジョン育成力	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、自立した生活、社会の形成における自己の役割について理解できるような指導し、自覚を促している。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、学校種をこえた連携や、家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図りながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導が充実するよう、助言をしている。	
	A 個に応じた指導・支援力	○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に関連する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 児童生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえ、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 児童生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、合理的配慮の視点から校内での連絡・調整を行うなどして、学校生活全体を通じて個に応じた支援を行っている。	○ 個々の児童生徒に対する合理的配慮の実施について助言を行い、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。	
B チームによる実践	○ 関係する校内分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んでいる。	○ 校内委員会等で情報共有を行ったり、外部の専門家や関係機関と連携したりして、ケース会議等を実施している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携した体制の整備を推進している。		
C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	○ 学びに困難を抱える児童生徒への配慮を理解し、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、児童生徒の学習上のつまずきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意欲的・主体的に学習支援を行っている。	○ アセスメントに基づき指導目標を明確化し、担任・担当間で積極的に授業改善を行うとともに、児童生徒の得意なことを認めることにより、学習意欲の向上につながる支援をしている。	○ 児童生徒一人一人の実態に応じた目標設定、教材教員の工夫、指導方法、評価・承認の方法等について、若手教員に助言をしている。		
D 「わかった」「できた」を育む生活支援力	○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活上の困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 児童生徒が見過ごしをもって学校生活を過ごすように、環境の整備やルーティン等の明確化を図るとともに、コミュニケーションスキル向上等に関する指導を行っている。	○ 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒を含む全ての児童生徒の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全ての教職員で指導の効果を確認し、児童生徒の成長を共に喜ぶ機会を計画的に設定している。		
A ICTを学習指導に活用する力	○ 児童生徒の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、食に関する指導の学習指導案を作成している。	○ 児童生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図る関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業や給食時間の指導を構想している。	○ 児童生徒一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業や給食時間の指導を実践している。	○ これまでの実践や経験をもち、食に関する指導に向け、必要とされる教育や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。		
B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した食に関する指導を実践するとともに、蓄積した教育データを学習評価につなげている。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業や給食時間の指導等と他のクラウドサービス等を活用しており、近隣の栄養教諭等と情報共有をしながら、多くの機能を理解し効率的に業務を遂行している。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補充的・発展的指導・支援をしている。		
C セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムを適切に活用する力	○ 栄養管理や衛生管理に必要なアプリケーション操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、献立作成や発注業務、情報漏洩防止等に必要となるアプリケーションや学校業務支援システム、その他のクラウドサービス等を活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムの多くの機能を他のクラウドサービス等を活用しており、近隣の栄養教諭等と情報共有をしながら、多くの機能を理解し効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービス等の効率的な活用について教職員に提案している。		

VI 提出書類

【様式A】 (記入例)

受講者番号
小 10

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

【自己評価方法】

- ①とくしま教員育成指標を参考に、各項目において、自分の現状に合うように整理して文章で入力する。
ジャンプアップ研修の手引 (P6~P11) にある、とくしま教員育成指標を参考にしてください。
- ②自分に該当するものを次のように数値化する。
あてはまる…4 だいたいあてはまる…3 少しあてはまる…2 あてはまらない…1
- ③「素養」「担任力・学習指導」などの大きなまとまりごとに、平均を出して、チャート【様式B】に入力する。

学校名		〇〇市△△小学校	職・氏名	教諭・□□ □□				
担当教科		音楽	校務分掌	安全教育				
資質・能力			自己評価のチェック					
			実施日(5/12)		実施日()			
項目		具体的内容	評価	平均	評価	平均		
素養	A	使命感・倫理観	使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。					
	B	識見・学び続ける力	知見を広げ、主体的に学習に取り組んでいる。					
	C	社会性・コミュニケーション力	とくしま教員育成指標を参考に、自分の現状に合うように整理して文章で入力する。					
	D	学校組織マネジメント力						
	E	連携・協働力						
	F	危機管理能力						
授業力・学習指導	A	カリキュラム・マネジメント力						
	B	授業構想力						
	C	授業実践力						
	D	授業省察力・改善力						
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力						
	B	集団づくり力						
	C	課題解決力						
	D	未来ビジョン育成力	【自己評価の活用について】 ①自己評価から見えてきた自分のよさや課題を整理する。 ②自己分析を踏まえて、本年度の目標を設定する。					
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力						
	B	チームによる実践						
	C	「わかった」「できた」を育む学習支援力						
	D	「わかった」「できた」を育む生活支援力						
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力						
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力						

6月6日(金)までに、色の付いているところに入力して提出する。

教科等指導研修実施日までに完成させ、研修日に持参する。

【様式A】小学校、中学校・中等教育学校（前期課程）教諭用

受講者番号

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学校名		職・氏名				
担当教科		校務分掌				
項目		資質・能力	自己評価のチェック			
			実施日()		実施日()	
項目		具体的内容	評価	平均	評価	平均
素養	A	使命感・倫理観				
	B	識見・学び続ける力				
	C	社会性・コミュニケーション力				
	D	学校組織マネジメント力				
	E	連携・協働力				
	F	危機管理能力				
授業力・学習指導	A	カリキュラム・マネジメント力				
	B	授業構想力				
	C	授業実践力				
	D	授業省察力・改善力				
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力				
	B	集団づくり力				
	C	課題解決力				
	D	未来ビジョン育成力				
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力				
	B	チームによる実践				
	C	「わかった」「できた」を育む学習支援力				
	D	「わかった」「できた」を育む生活支援力				
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力				
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力				

【提出について】

ジャンプアップ研修の手引 P2参照 提出期限 令和7年6月6日(金)

【様式A】高等学校・中等教育学校（後期課程）教諭用

受講者番号

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学校名		職・氏名					
担当教科		校務分掌					
資質・能力				自己評価のチェック			
				実施日()		実施日()	
項目		具体的内容		評価	平均	評価	平均
素養	A	使命感・倫理観					
	B	識見・学び続ける力					
	C	社会性・コミュニケーション力					
	D	学校組織マネジメント力					
	E	連携・協働力					
	F	危機管理能力					
授業力・学習指導	A	カリキュラム・マネジメント力					
	B	授業構想力					
	C	授業実践力					
	D	授業省察力・改善力					
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力					
	B	集団づくり力					
	C	課題解決力					
	D	未来ビジョン育成力					
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力					
	B	チームによる実践					
	E	多様性に基づく学習支援力					
	F	多様性に基づく生活支援力					
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力					
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力					

【提出について】
 ジャンプアップ研修の手引 P2参照 提出期限 令和7年6月6日(金)

【様式A】特別支援学校教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

受講者番号

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学校名		職・氏名					
担当教科		校務分掌					
資質・能力				自己評価のチェック			
				実施日()		実施日()	
項目		具体的内容		評価	平均	評価	平均
素養	A	使命感・倫理観					
	B	識見・学び続ける力					
	C	社会性・コミュニケーション力					
	D	学校組織マネジメント力					
	E	連携・協働力					
	F	危機管理力					
授業力・学習指導	A	カリキュラム・マネジメント力					
	B	授業構想力					
	C	授業実践力					
	D	授業省察力・改善力					
担任力・生徒指導	A	幼児児童生徒理解・指導力					
	B	集団づくり力					
	C	課題解決力					
	D	未来ビジョン育成力					
	E	目標の明確化・実態把握力					
	F	チームによる組織力					
特別支援の充実	G	センター的機能の推進力					
	H	地域貢献力					
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力					
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力					

【提出について】

ジャンプアップ研修の手引 P2参照 提出期限 令和7年6月6日(金)

【様式A】 養護教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

受講者番号

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学校名		職・氏名				
担当教科		校務分掌				
項目		資質・能力	自己評価のチェック			
			実施日()		実施日()	
		具体的内容	評価	平均	評価	平均
素養	A	使命感・倫理観				
	B	識見・学び続ける力				
	C	社会性・コミュニケーション力				
	D	学校組織マネジメント力				
	E	連携・協働力				
	F	危機管理能力				
専門的職務実践力・学習指導	A	保健管理				
	B	保健教育				
	C	健康相談				
	D	保健室経営				
	E	保健組織活動				
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力				
	B	集団づくり力				
	C	課題解決力				
	D	未来ビジョン育成力				
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力				
	B	チームによる実践				
	C	「わかった」「できた」を育む学習支援力				
	D	「わかった」「できた」を育む生活支援力				
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力				
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力				

【提出について】
 ジャンプアップ研修の手引 P2参照 提出期限 令和7年6月6日(金)

【様式A】栄養教諭用

受講者番号

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学校名		職・氏名				
担当教科		校務分掌				
項目		資質・能力	自己評価のチェック			
			実施日()		実施日()	
		具体的内容	評価	平均	評価	平均
素養	A	使命感・倫理観				
	B	識見・学び続ける力				
	C	社会性・コミュニケーション力				
	D	学校組織マネジメント力				
	E	連携・協働力				
	F	危機管理能力				
専門的職務実践力・学習指導	F	教科等における教育指導				
	G	個別的な相談指導				
	H	学校給食の管理				
	I	食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開				
	J	食育コーディネーターとしての連携・調整				
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力				
	B	集団づくり力				
	C	課題解決力				
	D	未来ビジョン育成力				
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力				
	B	チームによる実践				
	C	「わかった」「できた」を育む学習支援力				
	D	「わかった」「できた」を育む生活支援力				
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力				
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力				

【提出について】
 ジャンプアップ研修の手引 P2参照 提出期限 令和7年6月6日(金)

【様式B】（記入例）

とくしま教員育成指標に基づく自己評価表

受講者番号

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学校名	〇〇高等学校	職・氏名	教諭・□□ □□
担当教科等	保健体育	校務分掌	生徒指導
		自己分析	実施日(5/12)
		○よさ 第1ステージ 基盤形成期における達成度を記入してみましょう。 成長の度合いを客観的に見てみましょう。	
		○課題	

【自己分析に基づく本年度の目標】※どのようなことに取り組むか、具体的に書きましょう。

6月6日(金)までに色の付いているところに入力して提出する。

【本年度の振り返り】※「自己評価チェック表」を基にして、どのような資質・能力が高まったか等について書きましょう。

教科等指導研修実施日までに、必ず管理職の確認を受けて、
 完成させたものを教科等指導研修に持参する。

記入漏れが多い箇所です。確認してください。

〇〇高等学校長 徳島 太郎

【様式B】小、中・中等（前期課程）、高・中等（後期課程）教諭用
 とくしま教員育成指標に基づく自己評価表
 【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

受講者番号

学校名		職・氏名	
担当教科等		校務分掌	
		自己分析 実施日()	
		○よさ	
		○課題	

【自己分析に基づく本年度の目標】※どのようなことに取り組むか、具体的に書きましょう。

【本年度の振り返り】※「自己評価チェック表」を基にして、どのような資質・能力が高まったか等について書きましょう。

学校長

【提出について】
 ジャンプアップ研修の手引 P2を参照 提出期限 令和7年6月6日(金)

【様式B】特別支援学校教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価表

受講者番号

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学校名		職・氏名	
担当教科等		校務分掌	
		自己分析 実施日()	
		○よさ	
		○課題	
【自己分析に基づく本年度の目標】※どのようなことに取り組むか、具体的に書きましょう。			
【本年度の振り返り】※「自己評価チェック表」を基にして、どのような資質・能力が高まったか等について書きましょう。			
学校長			

【提出について】

ジャンプアップ研修の手引 P2を参照 提出期限 令和7年6月6日(金)

【様式B】 養護教諭・栄養教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価表

受講者番号

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学校名		職・氏名	
担当教科等		校務分掌	
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> 学習指導 専門的職務実践力・ </div> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl;"> 生徒指導・ </div> </div>		自己分析	実施日()
		○よさ	
		○課題	

【自己分析に基づく本年度の目標】※どのようなことに取り組むか、具体的に書きましょう。

【本年度の振り返り】※「自己評価チェック表」を基にして、どのような資質・能力が高まったか等について書きましょう。

学校長

【提出について】
 ジャンプアップ研修の手引 P2を参照 提出期限 令和7年6月6日(金)

【様式C】 研究授業実施計画表

ジャンプアップ研修では、ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力のさらなる向上を目指しています。学習指導要領の趣旨を実現するために、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、研究授業を行ってください。

《研究授業実施計画表作成の留意点》	
<input type="checkbox"/> 研究課題の設定は、教科、単元・題材の特性等や児童生徒の実態、自身の現状（自己評価の結果）等を踏まえて行うこと。	
<input type="checkbox"/> 課題解決のための方策として、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確に設定した上での、実践的指導力の向上のための工夫・改善について考えること。	
<input type="checkbox"/> eラーニング研修で視聴したNITSオンライン講座から学んだことや、校内の徳島型メンター制度を活用して得た知見等を踏まえて授業づくりに取り組むこと。	

校 種 等	<input type="checkbox"/> 小 <input type="checkbox"/> 特	<input type="checkbox"/> 中・中等（前期課程） <input type="checkbox"/> 養 <input type="checkbox"/> 栄	<input type="checkbox"/> 高・中等（後期課程） （クリックして <input checked="" type="checkbox"/> してください。）
学 校 名			
受 講 者 番 号		氏 名	
NITSオンライン講座視聴タイトル			
講座を視聴して学んだこと・今後に生かしたいこと			
授 業 日	令和7年 月 日（ ）		
学 年 ・ 教 科 等	（ ）年 ・ （ ）		
単 元 名 等			
研 究 課 題			
課 題 設 定 の 理 由			
課 題 解 決 の た め の 方 策			

※特別支援学級で授業を行う場合、「学年・教科等」に、「特別支援学級（障がい種）〇年・（教科）」と記入してください。

※eラーニング終了後に、【様式A】、【様式B】、【様式C】を、総合教育センター教職員研修課ジャンプアップ研修担当宛にメールで提出すること。

【送付先メールアドレス】 jumpup@mt.tokushima-ec.ed.jp 提出期限 令和7年6月6日(金)

※県立学校に関しては、学習系パソコン（外部メール）から送付してください。

VII GIGAスクール構想推進のための指導事例（全校種 全教科・領域共通）

（例：中学校英語科 SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 PROGRAM 6）

※注意※
この例は、本時の部分のみを
抜き出したものです。

6 本時（第7時）

(1) 目標

自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）について紹介する文を書くことができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価 方法
5分	1 挨拶・ウォームアップをする。	・簡単なQ&AやSmall Talkにより、英語の授業の雰囲気づくりに努める。		
10分	2 セクション1～3の内容について復習する。	・これまでの授業で配付し、生徒が各自タブレットに保存している地図や写真、表などを見ながら音声を聞かせ、セクション1～3の概要を再確認させる。 ・電子黒板で画像を提示しながらQ&Aを行い、本文の正確な内容を確認させる。		
5分	3 ボイヤンさんの取組についての感想を発表する。	・ボイヤンさんの取組について感じたことを、タブレットのノートに書いて共有させる。		
20分	4 自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）を紹介する英文をタブレットのワークシートに書く。	・前時に作成したマッピングを用いて、自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）を紹介する英文を、入力スキルの差に配慮しながらタブレットのワークシートに書かせる。 <評価のポイント> ・関係代名詞などを用いてまとまりのある英文が書けているか。 ・聞き手・読み手を意識した自然なつながりの文章になっているか。	知・思・態 （各教科・領域の記入例で）	作品
10分	5 本時のまとめをし、次時の予告と家庭学習の確認、挨拶をする。	・作品をいくつか紹介し、優れた表現を共有するとともに、次時の予定（紹介文の発表）とその準備（家庭学習）をしてることを伝える。		

情報活用能力の評価規準は記入しない。

1人1台端末等をメインで活用した場面を太字で記入し、枠で囲む。

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）について、関係代名詞を含め既習表現を用いたり、主体的に辞書等で調べたりしながら、まとまりのある英文で正確に書くことができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	関係代名詞を使って書かれた、ものや人を紹介する文を例示したり、単語や表現したいことを辞書やタブレット端末等を使って調べる支援をしたりする。